



平成 29 年 8 月 4 日

各 位

会 社 名 ダブル・スコープ株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 崔 元 根  
 (コード番号 6619 東証第一部)  
 問合せ先 取締役戦略企画本部長  
 大内 秀雄  
 (TEL 03 - 5436 - 7155)

## 業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 5 月 11 日付で公表しました業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

### ●業績予想の修正について

平成 29 年 12 月第 2 四半期(累計)連結業績予想数値の修正(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 6 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,000	1,000	900	600	19. 34
今回修正予想(B)	4,490	355	165	139	4. 48
増減額(B-A)	△510	△645	△735	△461	
増減率(%)	△10. 2	△64. 4	△81. 7	△76. 8	
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 12 月期第 2 四半期)	4,480	1,481	1,433	1,089	38. 06

平成 29 年 12 月期通期連結業績予想数値の修正(平成 29 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	12,000	2,400	2,200	1,700	54. 79
今回修正予想(B)	10,000	1,000	800	600	19. 30
増減額(B-A)	△2,000	△1,400	△1,400	△1,100	
増減率(%)	△16. 7	△58. 3	△63. 6	△64. 7	
(ご参考)前期実績 (平成 28 年 12 月期)	9,048	2,370	2,479	1,945	65. 28

#### 【修正の理由】

平成 29 年上期においては、当社主力販売先である中国 EV 向け市場にて中国政府の助成金政策の大きな転換期となり、助成金対象リチウムイオン電池の設計開発の見直し時期と重なった為、販売数量が計画を下回りました。また、米国主要顧客も当期に当面の主力市場となる中国への量産移管に伴う生産減となり販売数量が減少しました。これらの影響は一部第 3 四半期まで継続する見込みとなりました。

一方、リチウムイオン電池市場全体では、ここ数年中国の EV 需要が成長を牽引してきましたが、これに加え来年以降の欧米自動車メーカーの EV (PHEV、HV を含む) 需要の急増が見込まれる状況となっております。

このような状況下、当社では欧米向け EV 需要を先行的に取り込める体制作りに注力しており、当初の計画通り、生産能力増強の為の大型設備投資を継続するとともに、従来から稼働中の生産ライン(第 1～7 号)においても欧米自動車業界に対応すべく品質レベルを向上させる目的で、生産ライン及び工場設備等の改修工事を継続しております。これに伴う生産性の一時的な低下と費用の発生も第 3 四半期まで継続する見通しとなっております。また、第 1 四半期から継続して発生している増設生産ラインの減価償却費の負担増及び、人員の先行採用に伴う人件費増に加え、新規顧客向けのサンプル出荷増により営業利益が下振れしております。

上記要因の他に、平均為替レートが下記の通り当社想定レートに比べ、対ドルに対し円安に、対ドルに対しウォン安に推移した結果、対ウォンに対し円安となり、売上・利益の改善につながりましたが、上記の要因により開示済みの第2四半期連結累計期間の計画を下回る結果となり、業績予想を修正することと致しました。

	期初想定 為替レート	実績為替 レート	差異	損益への影響
円対1米ドル	100 円	112.38 円	12.38 円円安	売上・利益の増加
円対1,000 ウォン	95.2 円	98.4 円	3.2 円円安	利益の減少
ウォン対1米ドル	1,050 ウォン	1,142.06 ウォン	92.06 ウォンウォン安	利益の増加

(第3四半期以降の見通し)

以上の影響は、第3四半期まで継続しますが、主要顧客の需要は引き続き旺盛であり、第4四半期以降の売上高及び営業利益は当初計画水準に回復する見通しです。なお、8月以降新規設置の大型ラインである第8号生産ラインからの主要顧客向けサンプル出荷を開始する予定であり、第4四半期には量産出荷の開始を見込んでおります。

第3四半期以降の想定為替レートにつきましては、昨今の為替相場等を鑑み、下記の通り見直しております。

	期初想定 為替レート	第3四半期以降 想定為替レート	差異
円対1米ドル	100 円	110 円	10 円円安
円対1,000 ウォン	95.2 円	100 円	4.8 円円安
ウォン対1米ドル	1,050 ウォン	1,100 ウォン	50 ウォンウォン安

以上の要因から、平成29年5月11日付の公表数値を修正致します。

**【業績予想に関する留意事項】**

業績予想につきましては、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

以 上